

平成 23 年度事業

■ 研究事業

- 和歌山市まちづくり戦略研究（詳細は研究概要①として後述）
- 和歌山市における幹線公共交通網の再構築とまちづくりに関する研究（詳細は研究概要②として後述）

■ 刊行物

- 機関誌「地域経済」
- 報告書

■ ホームページによる広報

URL : <http://www.eco.wakayama-u.ac.jp/wtkkk/>

《研究概要①》

和歌山市まちづくり戦略研究会

研究会主査 木下 雅夫
(財)和歌山社会経済研究所 常務理事・事務局長

【研究の背景及び目的】

未曾有の災害がわが国を襲った。しかし、日本国民は必ず立ち直る。そのための努力と知恵は惜しみなくつぎ込まねばならない。ところで、和歌山県も近いうちに発生するであろう「東南海・南海大地震」による災害が予想される中、被害を最小限にとどめ「安全で安心できる生活空間」の確保・構築が改めて議論されている。さらに、将来に向けてのまちづくりの重要な要素でもある、社会インフラの整備や財政負担、産業構造や人口構造のトレンド、ライフスタイルの変化などもカバーしたグランドデザイン的な都市計画づくりが必要とされている。マクロ的にとらえれば、社会構造の枠組みの大きな変化にどう対応していくかということといえよう。

各地域にはその立地特性に応じたさまざまな固有の課題が存在し、その解決に向けた取り組みがなされているが、今年度、和歌山地域経済研究機構では「和歌山市まちづくり戦略研究会」として、和歌山市を中心とした和歌山市圏域における将来の望むべき姿～「持続可能な都市像」＝グランドデザイン～づくりを研究することとした。地域特性を活かしながら多くのひとが交流し「住んでよかった。来てよかった」といわれるまちづくりのビ

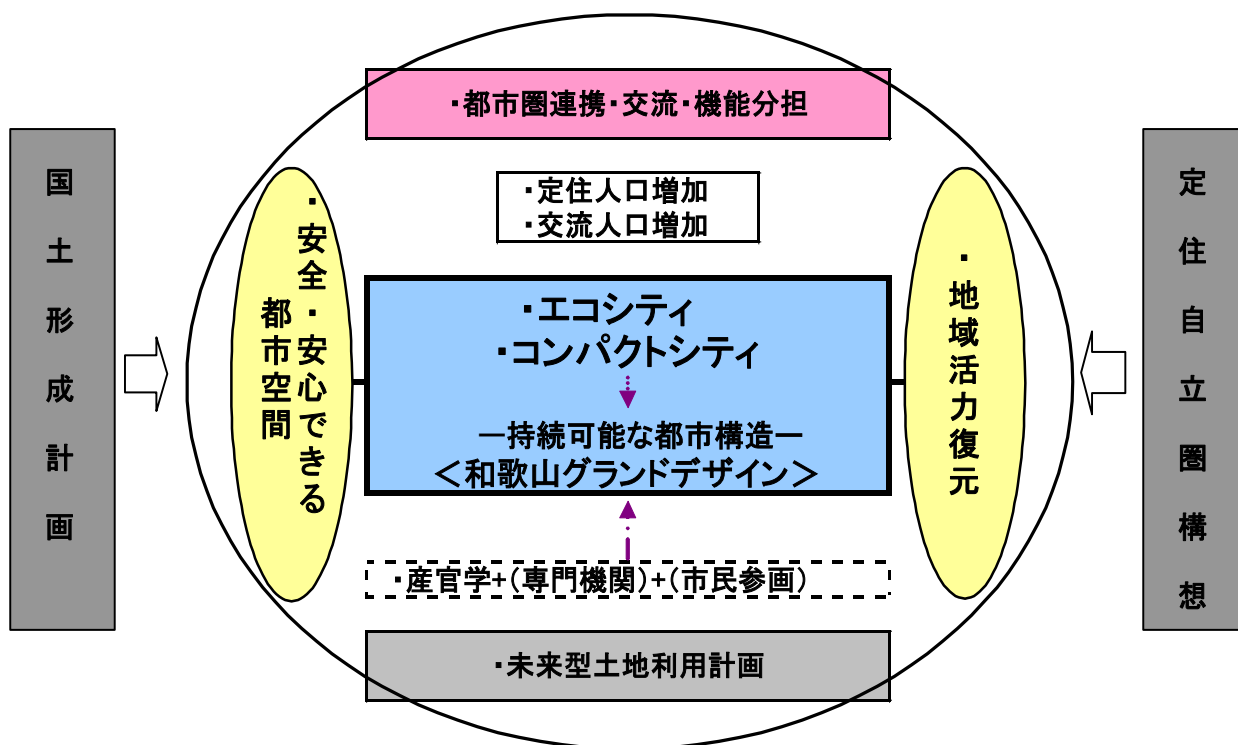
ジョンを構築することが目的である。そのアプローチとして、さまざまな条件と課題を整理し、われわれが目指すべき方向性と和歌山市圏域のあるべきグランドデザインを関係各者の知見とアイデアにより描く。

【研究の概要】

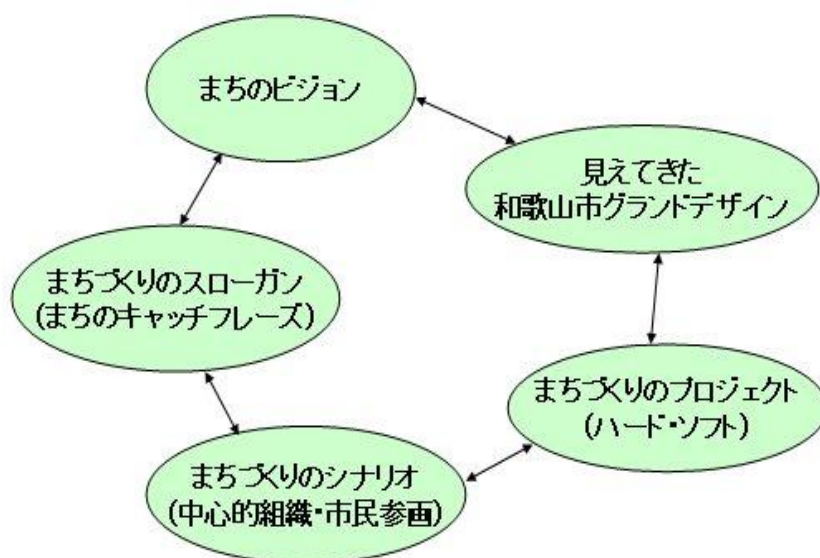
研究は平成 23 年度、24 年度の 2 ヶ年の計画で取組む。和歌山市圏域の現状と課題を十分整理しながら目指すべき将来像をさまざまな要素で統合し、最も和歌山らしい「まちのありよう」を構築する。目指すべきビジョンとイメージの一例を次に示す。

- <ビジョン>
- ・定住・交流人口の増加
 - ・地域活力復元（産業・コミュニティ・人材・文化等）
 - ・安全・安心できる生活空間（防災・医療・福祉・教育等）
 - ・エコシティ（環境保護・交通体系）
 - ・コンパクトシティ（都市機能効率化・拡散防止等）
 - ・未来型土地利用計画（ゾーニング・モザイク）

<イメージ>



<プロセス>



【メンバー】

主査	木下 雅夫	(財)和歌山社会経済研究所	常務理事・事務局長
	中山 健太	(財)和歌山社会経済研究所	研究部長
	畑山 善生	(財)和歌山社会経済研究所	研究部長
	中平 匡俊	(財)和歌山社会経済研究所	主任研究員
	松村 光一郎	(財)和歌山社会経済研究所	主任研究員
	大泉 英次	和歌山大学経済学部	教授
	足立 基浩	和歌山大学経済学部	教授
	鈴木 裕範	和歌山大学経済学部	准教授
	大井 達雄	和歌山大学観光学部	准教授
	山本 敦子	和歌山大学経済学部	助教
	中谷 正隆	和歌山商工会議所	企画・街づくり支援室主任
	中谷 恵理子	和歌山商工会議所	企画・街づくり支援室主事

なお、本研究会には、随時各界の有識者、専門家のオブザーバー参加を予定している。